

令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議 (石巻・登米・気仙沼区域)

日 時 令和2年2月5日(水)
午後5時30分から午後7時00分まで
場 所 登米合同庁舎5階 501会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

- (1) 外来医療計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
- (2) 具体的対応方針の再検証等について・・・・・・・・・・資料2
- (3) その他

4 報 告

宮城県地域医療構想推進支援事業について・・・・・・・・・・資料3

5 閉 会

< 配 付 資 料 >

-
- (資料1-1) 宮城県外来医療計画(最終案)の概要
 - (資料1-2) 宮城県外来医療計画(最終案)
 - (資料1-3) 宮城県外来医療計画(中間案)に対する関係機関・団体からの御意見等, それに対する県の考え方及び最終案への反映状況
 - (資料2-1) 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について
 - (資料2-2) 地域医療構想の実現に向けた重点支援区域の選定について
 - (資料3) 再編統合等を検討する公立病院への支援について

令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議
(石巻・登米・気仙沼区域) 出席者名簿

【委員】

(順不同・敬称略)

分野	No	氏名	所属	備考
医師会	1	荒井 啓史	宮城県医師会 理事	欠席
	2	神部 廣一	桃生郡医師会 会長	
	3	千葉 淳	石巻市医師会 会長	副座長
	4	大坂 國通	登米市医師会 会長	
	5	森田 潔	気仙沼市医師会 会長	座長
歯科医師会	6	鈴木 徹	石巻歯科医師会 会長	欠席
	7	高橋 利光	登米市歯科医師会 会長	欠席
	8	加藤 誠	気仙沼歯科医師会 会長	
薬剤師会	9	澁谷 和彦	石巻薬剤師会 会長	
	10	鳥居 栄人	登米市薬剤師会 会長	代理:小野寺 裕昭 副会長
	11	武田 雄高	気仙沼薬剤師会 会長	
看護協会	12	小山 よし子	宮城県看護協会 気仙沼支部 理事	
病院	13	石橋 悟	石巻赤十字病院 院長	
	14	横田 憲一	気仙沼市立病院 院長	
	15	松本 宏	登米市民病院 院長	代理:高橋 雄大 副院長
	16	椎葉 健一	石巻市立病院 院長	
	17	初貝 和明	南三陸病院 院長	
	18	齋藤 明久	齋藤病院 院長	
	19	勝又 貴夫	石巻健育会病院 院長	
	20	庄司 好己	真壁病院 院長	
	21	猪苗代 盛貞	猪苗代病院 院長	欠席
保険者	22	後藤 善征	全国健康保険協会宮城支部 企画総務部長	
	23	門間 博幸	宮城県国民健康保険団体連合会 事務局長	
市町村	24	守屋 克浩	石巻市健康部 部長	
	25	平山 法之	登米市市民生活部 部長	
	26	菅原 宣昌	気仙沼市保健福祉部 部長	
保健所	27	鈴木 陽	宮城県石巻保健所・登米保健所・気仙沼保健所 所長	

【地域医療構想アドバイザー】

氏名	所属	備考
石井 正	東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授	

【事務局】

氏名	所属
佐々木 真	宮城県 保健福祉部 医療政策課長
遠藤 圭	同 同 医療政策課 医療政策専門監
日野 貴広	同 同 医療政策課 主幹(企画推進班長)

1. 開 会

○司会

ただいまから令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議石巻・登米・気仙沼区域を開催する。

2. 挨拶

○司会

開会に当たり、県保健福祉部医療政策課長の佐々木からご挨拶を申し上げます。

○佐々木保健福祉部医療政策課長

【挨拶】

3. 議 事

○司会

本日の調整会議の座長は、気仙沼市医師会森田会長にお願いしている。

○森田座長

それでは、次第に従い議事を進める。(1)外来医療計画について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○森田座長

では、ただいまの説明について質問等があればお願いします。

特にないようなので、項目(1)についてはこれで終了とする。

続いて、(2)具体的対応方針の再検証等について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○森田座長

ただいまの説明について、内容が2点あるので、まずは前段の、具体的対応方針の再検証等について質問等があればお願いします。

○初貝委員

資料2-1では、5年後を見据えた計画を協議するよう求められており、当院は名指しされている病院であるが、何か意見をまとめておけば良いのか。スケジュールが未定とのことであったが、準備もあるので具体的に教えてほしい。

○事務局

今後の対応についてだが、個別に病院からお話を伺う中では、様々な検討が進んでいると認識している。今後、各病院への照会を行い、調整の内容や困っている点についてお聞かせいただき、その内容を調整会議にお諮りするなど、地域全体での協議に繋げていきたい。

各病院においては、検討を進めていただき、県としては、適宜情報共有しながら調整会議までの間に地域全体の状況を整理してまいりたい。

○初貝委員

県からの照会はどのくらいの時期を想定しているのか。

○事務局

2月中に一度書面にて照会したいと考えている。

照会させていただいた上で、内容を見ながら個別の相談を重ね、調整会議までに整理してまいりたい。

○初貝委員

年度内までに考えをまとめておくということが良いか。

○事務局

年度内を想定しており、現時点での状況を回答いただきたい。

○後藤委員

質問と要望を申し上げる。

1月17日付けの国からの通知についてだが、9月に示された424病院から県内分について増減があったのか教えてほしい。

要望については、地域医療の現状、医療のかかり方や医師の働き方等について、県民を巻き込んだ議論に発展させていくため、マスコミ、県や市町村が発行している広報誌など、あらゆる広報媒体を活用して広報していただきたい。さらに、地域医療の現状を県民に認識していただくために、他県で実施しているような、県民に対するアンケートの実施や意見交換の場を設けることなどが有効かと思うので検討いただきたい。

○事務局

医療機関数については、新たな対応が必要な医療機関は増えていない。

県民各位への地域医療の現状の説明や周知、意見公募等については、昨年度から同じような御意見をいただいていることから、当課において広報チラシの作成などを進めているところである。また、この調整会議をはじめ、様々な場で御意見をお聞きする機会があるので、そうした声を踏まえながらこの調整会議に繋げる形で地域の声を反映させてまいりたい。

○森田座長

続いて、重点支援区域の選定について質問等があればお願いします。

○横田委員

我々の病院については、今回の重点支援区域の指定を受けていないが、圏域内に市立本吉病院がある。遠藤専門監も委員になっていただいている病院審議会においては、将来的に本吉病院との医療統合と機能再編、本院の急性期病床から回復期病床への転換等について議論されていく。それ以後には、急性期病床の回復期への転換のほか、別用途への施設改築など一つのまとまった事業が必要になると考えている。

重点支援区域について、支援の継続はいつまでを想定しているのか。

○事務局

目途は、地域医療構想の一つの目標時期である2025年になるかと思う。実際、重点支援区域の申請書においても、2025年の姿について照会されている。

○横田委員

2025年までに転換等が完了することが条件という理解で良いか。

○事務局

2025年までに完了する必要があるかについては、今後国に確認したい。国の説明会では、やはり、2025年に必要な機能の確保が支援の着眼点と聞いている。

補足として、今回は登米市内の病院について重点支援区域の申請をしているが、重点支援区域になったからといって国から強制的に病床の削減を求められるわけではない。また、今回短期間の中で申請するため、ある程度調整が進んでいる登米市内の病院についてだけ申請したが、地域課題について具体的に検討が進み、地域の課題解決や2025年に必要な機能に近づくものとして調整会議で合意を得れば、補助の対象になるということも国に確認している。

○横田委員

2025年までに転換等を完了することが条件となるかについて、後で教えていただきたい。

○石橋委員

国の支援は重点支援区域にならないと受けられないのか。

○事務局

国の新しいメニューであるダウンサイジング支援については、重点支援区域かどうかに関係なく対象となる。また、公立・公的・民間であるか、病床機能も問わず対象となる。重点支援区域の場合には、一層手厚く支援されることになるが、具体の数字については今後国から示される。

補足だが、資料5、6頁にこれまで県で実施している補助事業を記載しているが、これについても重点支援区域かどうかは関係がない。ただ、急性期の病床削減については

仙台区域以外が対象となっている。

○石橋委員

高度急性期・急性期・回復期などの病床を将来の必要数に向けて転換するには、この場で認められれば良いということか。

○事務局

そのようになる。

○石橋委員

病床削減や機能転換の補助は分かるが、急性期から高度急性期への転換についての支援はないのか。

○事務局

これまで行っている中では無い。救命救急センターであれば、設置主体によって国の補助もあるが、高度急性期への転換についての補助は無い。

○森田座長

ほかに質問等がなければ、項目（２）についてはこれで終了とする。

続いて、（３）その他、皆様から何かあるか。

ないようなので、これで終了とする。

4. 報 告

○森田座長

続いて、宮城県地域医療構想推進支援事業について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

本事業は今年度新たに実施したものであり、各医療圏の概況をまとめることと、個別の公立病院のコンサルティング支援を行うことを目的としている。株式会社日本経営及び七十七銀行に委託しており、資料の詳細については、後ほど株式会社日本経営から説明いただくが、まずは、概要について事務局から説明する。

【説明】

○株式会社日本経営

【説明】

○森田座長

ただいまの説明について質問等があればお願いします。

○小野寺委員代理

登米地域の医師数が少ないことは示されているかと思うが、少ない上に医療従事者の

年齢構成が地域的にかなり厳しいのではないかと思われる。同じ医師数であっても、医師がいる仙台区域と当区域では、平均年齢や今後の業務量の増加、働き方改革の流れなどが異なると思う。年齢構成からみるシミュレーションを持っているか教えてほしい。

○株式会社日本経営

公表されている資料の中で、医師の年齢等がまとまっているものがないため、そうしたデータは持っていない。

○森田座長

厚生労働省が公表する資料として、医師数はあるが平均年齢などはない。若い医師が少ない地域では、そのまま年齢が上がっていくので、国が求める在宅についても対応が難しくなってしまう。数の問題と中身の問題は区別して考えなければいけない。医師に限らず、年齢に応じてできることが限られてくるのは否めない。これは今後大事な視点かと思う。

初貝委員に伺うが、南三陸病院は稼働率が94.8%と高い。地域医療にかなり貢献されていると思うが、何かコメントをいただけるか。

○初貝委員

稼働率は結構高く、(厚生労働省が公表した)9領域や6領域で評価されるものではないと思う。また、慢性期の療養病床で診るのが難しいと思われる肺炎の患者などがいるので、今後どう評価していくかを検討している。

○森田座長

424病院の公表で問題となったのは、一つの視点で見たものだということである。南三陸病院は療養病床を持っており、地域になくてはならない病院だと考える。

ほかに質問等がなければ、項目4についてはこれで終了とする。

ほかに、皆様から何かあるか。

地域医療構想アドバイザーの石井先生から何かあるか。

○石井地域医療構想アドバイザー

今回初めて参加させていただいた。私は、東北大学で教育関連病院連携担当の立場であり、地域医療構想の診療科再編などについても東北大学との窓口役を務めながら、より良い医療提供体制となればと思う。是非ご相談いただきたい。

○森田座長

事務局から何かあるか。

○事務局

本日の会議資料及び議事録については、後日県のホームページに掲載する予定なので、了承願う。

○森田座長

皆様の協力で無事調整会議を終了することができた。司会進行を事務局に返す。

4. 閉 会

○司会

以上をもって、令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議石巻・登米・気仙沼区域を終了する。